



JEG ニュースレター 168号

www.jegschweiz.com

2018年12月10日発行

小さな証

スイスに嫁ぎ幸せな家庭を築くも、夫と一人娘に先立たれた筆者が悲しみの河を渡って得たものは。

P2

洗礼式／堅信礼

スイス／ドイツに音楽留学に来た若き学生がイエス様に出会い救われました！

P3

ゲルスタ先生が召天

闘病中であつたスイスJEGの前牧師、ゲルスタ先生が11月9日の早朝、天に凱旋されました。

P13～17

JEG創立25周年記念

ゲルスタ先生ご夫妻のイニシアティブでスイスに初めての日本語教会が創立されて今年で25年を迎えました。P5～12

小さな祈り

天のお父様

あなたの壮大なご計画のために取るに足りないわれら主イエスのフォロワーを、恵みと哀れみによって用いてくださることを感謝します。主に栄光あれ、アーメン！



実りは多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。 ルカ10：2

ゲルスタ師が愛された聖句

愛するゲルスタ先生
また会う日まで！

スイスJEG創立25周年記念号

ちいさな証

独りぼっちの私に神様がお与え下さったもの

エシェバッハー池田喜美子

スイス日本語福音キリスト教会



私は、この世に生まれて、すぐに神様のお恵みをいただいた幸せものです。私の生母は跡取りの息子を欲しいと願っていたのですが、女兒ばかり生まれ、三番目の私は未熟児で誕生し、成長は無理と云われて放置されてしまったのです。それを知った生母の両親は、主イエスを信じる二人でしたので、せめて天に召されるようにと、私を抱いて教会に行き、幼児洗礼を授けていただいたのです。神様は、ただ眠っている幼子を哀れに思われたのでしょうか、生命の息吹を吹き込んでくださいました。それゆえ私は生き延び、太平洋戦争の最中にも、空腹は覚えても、神様の存在は信じていたので不安な思いはした事はありませんでした。成長していくにつれ、神様にいただいた生命を大切に、御心に沿い、主の力に寄り添って生きたいと願っていました。

学校を卒業し仕事を始めてからは、夜は東京・神田にあったYMCAで紙芝居を制作したり、人形劇団のための人形を作って、同年輩の仲間と慰問訪問などをして奉仕に明け暮れたものでした。特に懐かしいキャンプでは、満天の星空の下で大きな輪になって焚き火を囲み、そんな時、日中のいたずら連中が神妙な顔つきをして、罪を告白したのがとても印象に残っています。

私の夫となるワルターと出会ったのもYMCA時代でした。二年の文通を経て、私は、「いつか獣医になる」そして「孫が授けられたら動物園めぐりをする」という夢を抱いてスイスという全く未知の国に来てしまったのです。しかし獣医になる夢は消え去り、新しい人生を歩むうちに夢のことは、日々の生活の中で遠くに去っていきました。

それから安定した年月が過ぎました。そうしたある日、健康だったワルターは、体についた吸血虫の発見が遅れ、脳の働きが止まり、悲しい出来事が次々と起こって、ついに天に召されていきました。残された母娘は、その後も私たち3人の願いであったスイス原産の小さな草花や鳥虫蝶、その他の弱い小動物を保護する暮らしを続けてきました。20年余り経った頃でしょうか、ある日、娘も健康な体のまま眠り続けていましたが、そのまま息が止まって、私の傍から天に飛び去ってしまいました。そうして孫との動物園めぐりの夢も消え、私は本当に独りぼっちになったのです。

夫と娘という人生の支えであり、愛情を注げる対象を失った私に、長年の親友のスイス婦人がツィター（弦楽器）を私にくれました。彼女は一緒に奏でようと、私に根気よく手ほどきをしてくれました。私はそのツィターに夢中になって日々を過ごしました。また、友人は彼女の飼った犬と散歩することもすすめてくれました。その犬と連れ立って森の中での散歩は私の精神の安定に役立ったようです。

可哀想なのは酷使されてきたツィターで、よれよれになり2、3の弦は未だに満足に調弦できずにいるのです。習った楽譜の枚数が20枚を越え、約一年が過ぎて、私は何となく一人での生き方を見つけたようです。ツィターのために沢山の曲を知ったのですが、その中には教会でもよく歌われる賛美歌や、幼い頃、日本で覚えたような原曲もあって、落ち込みそうになるとき、そのメロディーは私を慰めて勇気付けてくれました。

長い間、神様は私のような者にもお恵みを与えてくださり、朝に晩に、お礼と罪の赦しを請うお祈りをし、毎日、感謝しつつ生かさせていただいています。なにかにつけて欠点の多い私ですので、誤った行為やいびつな考えにお詫びし赦しを願う習慣は欠かせないものとなりました。過ちや失敗した事は数え切れない程ですので、神様の力をお借りして、その失敗を踏み台にして生きることができるようになりました。

一段上って今まで見ていなかったところを眺めると、そこには思いがけない世界がひろがっています。それに気をとられていますと、いまままで私を悩ませていたヤキモチや自己憐憫などの感情は消えて行き、いまままで悪く解釈していた事柄も、もう一度よく見直すと、私を訓練する良き事柄にとれるようになると気がつきました。そうするうちに気も晴れ、失敗の踏み台さん、ありがとう、そんなことを気づかせてくださったイエスさま、ありがとうと言いたくなるのです。

振り返れば、確かに悲しい出来事が度々起き「神様、なぜですか」と問う人生でもありましたが、ここに書ききれないほど家族との楽しく忘れ難き思い出も心の中に生きて宝となっています。全ては神様の手の中にあり、私はその神様に縋りながら残りの人生を全うしたいと願っています。

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを私たちは知っています。」ローマ人への手紙8：28



筆者の絵





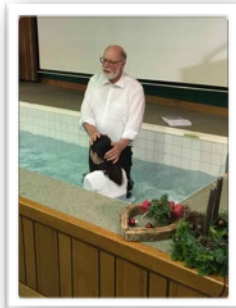
1. ゲルスタ師が召天 20年に渡って札幌でご夫人のウェンディ宣教師と共に宣教のお働きをされたあと、2010年7月から2013年5月まで、田辺正隆牧師の後任としてスイス日本語福音キリスト教会の専任牧師を務められたゲルスタ・ハンスウエリ前牧師は、長い闘病のあと、11月9日の早朝、自宅から天に故郷に帰られました。

11月26日(月)ゲルスタ先生が住まれたウスター市で15時からGedenkfeierが催行され、先生を慕う大勢の参加者(スイスJEGから31名参加)がありました。このニュースレターの14ページより師と関わりをもった兄弟の師を偲んでの証と想い出が掲載されていますのでお読みください。

次のURLは、ゲルスタ先生ご夫妻のスイスJEGでの働きをウェンディ夫人の英国の支援会に紹介するため制作されたショートビデオです。4分 <https://www.youtube.com/watch?v=cODEiJQgHso&feature=youtu.be>

2. 洗礼式、堅信礼、入会式

ひとつの魂を天に送ったあと、スイスJEGでは、11月25日、三つの洗礼式、ひとつの堅信礼、ひとつの入会式があり、スイスJEGの歴史始まって以来の稀有で特別な日曜礼拝となりました。深井愛記音さん(バーゼル音楽院学生・ブロックフルート)後藤千晶さん、ヴァイランド天音さん、トムセン泉マリアさんはイエス様を信じ洗礼を、そして、堅信礼を受けられ、神の家族に加えられました。



後藤千晶さん(ストラスブール音楽院学生、ギターリスト)は、今村泰典、葉子姉が10年前の発足以来お世話されてきたストラスブール”聖書のお話を聴く会”から初めて出た受洗者です!

3. スイスJEG創立25周年記念

スイス日本語福音キリスト教会は、札幌からデピュテーションでスイスに帰国中のゲルスタ宣教師が、スイスには一つも日本人のための教会がないことに胸を痛め、多くのスイス人宣教師に声をかけ、イニテシアティブをとって創立された教会です。今日まで、多くの祈りに支えられ、主の祝福と恵みと導きのなかで、25年もの間、主を賛美する礼拝を持つ幸いを得ました。11月8日(日)創立25周年を祝い、記念礼拝が持たれました。礼拝後、上映されたスライドショーでこの25年を感謝をもって振り返りました。12分のビデオhttps://www.youtube.com/watch?v=o_p4rGpLHr0



楽しい交わり・愛餐会のスナップから トムセン・カレン姉撮影



10月14日はイスラエル旅行団引率のため留守にされたマイヤー牧師に替わって、フランクフルト日本語福音キリスト教会の修養会で講師を務められた原田憲夫・横浜緑園キリスト教会巡回牧師が”目標を目指して走ろう”というテーマでピリピ3:12-14からみ言葉を解き明かしてくださいました。

5. 新講解説教シリーズ

8月26日から始まった新シリーズ”福音と律法との対決・ガラテヤ人への手紙”は、11月11日で4回を数え、”良い行いの価値”をテーマにマイヤー牧師がメッセージをされました。上記の原田憲夫牧師ならびにマイヤー牧師のメッセージはスイスJEGのHP:礼拝メッセージサイトで視聴していただけます。

6. ジョイジョイキッズ

11月30日(金)15時から18時まで教会堂に隣接するMaranatha-Hausで、CSによる、アドベントのためのイベント”ジョイジョイキッズ”には、子供の参加者11名、JEG以外の母親6名の参加者があり、クリスマス・クッキーやアドヴェントカレンダー作りにおおいに盛り上がりました。マイヤー先生にもクリスマスにまつわるお話をいただきました。まだまだJEGを知らない日本人も多く、地域に根ざした活動の大切さを知りました。



7. 第12回欧州日本語教会教職者研修会

11月5日から8日まで、南ドイツ・モンバッハタールで、今年で第12回となる欧州日本語教会の教職者研修会が開催され、日頃離れた場所で孤軍奮闘されている教職者とその伴侶22名が集いました。マイヤー牧師も参加され、第2テモテを学び、共に祈り合い、励ましあう貴重な機会が与えられました。



8. スイスJEGとキリスト者の集いのWebsiteがスマホ用に

スマホによるサイト訪問者の増加(現在40%)に応じて、スマホでも読みやすいように、[スイスJEG](#)ならびにスイスJEGの管理する[ヨーロッパ・キリスト者の集い](#)のHPをデザインしました。ご利用になってお気づきの点をお知らせくだされば幸いです。

9. 世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

オーニング宣教師、クツ・プスキラ宣教師、フーサー香織・シモン宣教師、矢部晶宏宣教師からのRundbrief、フランクフルト日本語福音教会月報ひろば、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、パルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、在欧日本人宣教、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の姉妹は、HPでパスワードを入れて、いつでもお読みできるようにいたしました。

軽井沢ERFキャンプレポート

神の家族の一員として 長井宏敬 めぐみ福音キリスト教会

2018年11月23
～ 24日、
ERF【エルフ】と
して2回目となる
一泊リトリートが、
在欧日本人宣
教会協賛のもと、
昨年と同じ軽井沢
の会場において開
催されました。



日常の荷物を降ろして共にイエスさまの御前に座り、みことばにどっぷりと浸かる。そのようなプログラムを目指し、今回はテーマ聖句「主の家に住もう」（詩編27編4節）より、メッセンジャーにお迎えした吉川直美先生リードのもと、参加者みんなで黙想体験に取り組みました。聖書箇所をゆっくり声に出して読み、繰り返し読みながら自然に心にとまる箇所を絞っていく。心の中でそのことばを思い巡らしていく。初体験となる黙想に新鮮な驚きを持たれた方が多かったようです。

私自身このリトリートを通して一番印象に残っていることは、「意識的に神さまとの時間を取り分ける」ことの大切さです。黙想体験は、そのためのとても新鮮な気づきを私に与えてくれました。

『一つのことを私は主に願った。それを私は求めている。私のいのち



の日の限り 主の家に住むことを（詩編27編4節）』。優先順位を神様一番にして、忙しい日常の中にあっても、主の家に住む神の家族の一員として、これからもしっかりと主を見つめながら主と共に歩んでいきたい、そう改めて誓う時となりました。

また、今回のリトリートでは、今年ヨーロッパから本帰国された兄弟姉妹、また、今夏エジンバラでの集いで配布させて頂いたチラシをきっかけに参加された方もいて、ヨーロッパと日本とのつながりを実感できるうれしい時でもありました。

遠くは鳥取、関西方面から、近くは軽井沢から、ヨーロッパ帰国者だけでなく様々な背景を持った総勢38名の方々が集められ、とても新鮮な交わり、励ましの時となりました。沢山の祈りに支えられ、リトリートのすべてが守られたことを感謝します！

み言葉を深く読む事の恵み 津田和明 日本基督教団洲本教会



今回は初参加で東京での準備ミーティングに出られなかったのにもかかわらず、賛美チームとスモールグループのリード、証会の進行を任せてもらい、奉仕させていただきました。

どこかヨーロッパを感じさせる美しい軽井沢の自然の中で、神様とヨーロッパをつながりとした方々と美しいひと時を持つことができました。

8月に帰国してから、会う人会う人にドイツとスイスで音楽を勉強していたことや、日本の神学校で学びたいから帰ってきたことを説明するのがパターン化して辟易としていましたが、その感じで自己紹介すると、向こうもヨーロッパに住んでいた方が殆どだったので、とっても気持ち的に楽になり、ヨーロッパの日本人クリスチャン同士の独特のオープンな交わりを楽しめました。

今回は地元淡路島の母教会

から母を含め3人の方々が参加してくださいました。

久々の賛美チームは、初めていっしょに演奏する人ばかりなのに、気持ちひとつにぴったりでしたし、スモールグループでもそれぞれ独特の視点や観点から違った気づきをシェアできました。今回は求道者の方も同じスモールグループにいらっやっやっ、わずかに1泊2日の間に、主にある交わりの中でその人がどんどん変えられて、イエスキリストに出会っていく、主の御業を見させていただきまし



た。素晴らしい証も2つあり、感動と励ましをいただき、涙が止まりませんでした。夜は良い交わりも与えられ、笑いと良い力に囲まれた心地良い時間が与えられました。学びの中でも、今一度主の御前に進み出る様な(初めてやった)「黙想」の時間が与えられ、詩篇の箇所を何度も深く深く読み込むことの恵みが与えられたり、普段の日本の忙しい生活の中で、主から離れていたなと実感させられました。そして、やっぱり自分の救いのルーツはヨーロッパの日本人クリスチャンだったので、ひさびさに伸び伸びとした里帰りの様な交わりが与えられて感謝でした。



不思議な業をなされる方

渡邊万智子

大阪インターナショナルチャーチ

ハレルヤ！主の御名を賛美します。
この度は25周年おめでとうございます。

私がスイスに滞在していたのは主に2009～2010年でしたので、当時のスイスJEGはまだ創立15年前後だったのですね。

この25年間、スイスJEGを主が豊かに祝福して下さい、祖国を遠く離れた日本人の為に必要を備えて下さったことに感謝の気持ちが溢れます。当時の牧師は田辺先生でしたが、ドイツでの奉仕に専念されることになった際も、一時的な方も含め主が牧師先生をたてて下さっていたのが思い出されます。

また個人的なことでも、当時まだ求道中だった私がサントガーレンのゴスペル書店を通してルツ先生に導かれ、学びに誘っていただいたり、Usterでの主日礼拝に車で送っていただいて参列させていただいたり（日本語の教会があるとは知りませんでした！）、、、本当に私たちの信じる唯一の神、



アッペンツェラーランドで 2010年

主は、私をクリスチャンのみなさまの交わりと正しい教会へ導いて下さるような、恵み豊かで不思議な業をなされる方だとあらためて驚くと共に感謝の気持ちでいっぱいになります。

11月25日には特別礼拝で多くの方が受洗し堅信に導かれ、入会を決心されたとお聞きしました。本当に素晴らしいことですね！これからもスイス日本語福音キリスト教会と集う方々に主の溢れんばかりの祝福があり、かつての私のような未信者や求道者の為に大いに用いられますように。またいつか皆様にお会いできるのを楽しみにしております！

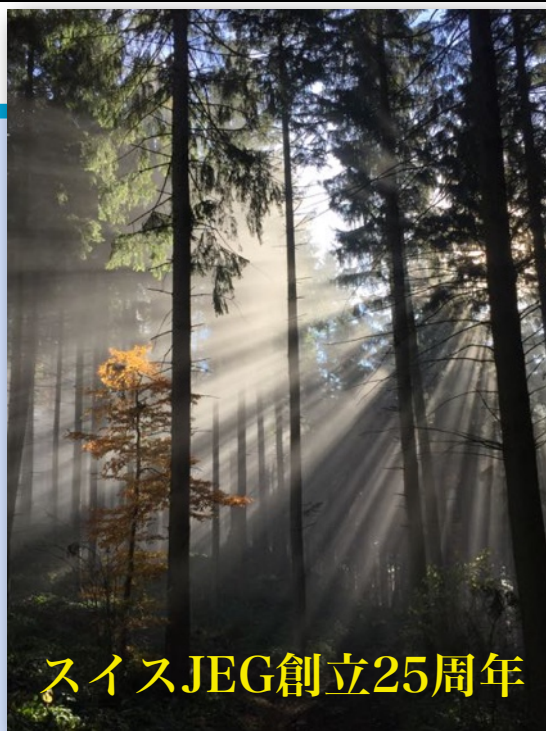
豊かな実りを約束される主

ハウリ・ジョアンヌ

スイス日本語福音キリスト教会

スイス日本語福音キリスト教会が創立されて今年で25年！その間、数え切れないほどの喜びの出会いや嬉しい出来事が何とたくさんあったことでしょうか！そして、私がこの教会で知り合った人々からどれだけ豊かな恵みを受けてきたことでしょうか！

特に素晴らしい思い出があるのは兄弟姉妹とともに週末を過ごした修養会です。はじめにベルナーオーバーランド、パーゼル近郊のカンデルン、そして東スイスや南独バード・リーベンツェル。いつもそれらは大変価値のあるものでし



スイスJEG創立25周年

た。その間、私たちの教会に通った、そして、残念ながら帰国された多くの日本の友人のことを、私は懐かしく思い返してみます。彼らが、たくさんの良き思い出を、スイスから持ち帰ってくださったことを願っています。例えば、創立時から教会の運営に貢献された吉田さんを、再び私たちの教会にお迎えできるなら、なんと素晴らしいことでしょう！

第一世代の幾人かは、すでに召されて私たちのもとから去っていかれました。アートゥア・クンツ、ワルター・シグリスト、ゲアハルト・ルート、そして今度はハンスウェリ・ゲルスタ、、。彼らは私たちの教会を建て上げ、たくさんの価値ある奉仕をされ、献身的に教会を導かれ

ました。私は、永遠の御国において、かれらと再会することを楽しみにしています。そこに至るまで私たちは福音の種まきを可能な限りしていこうではありませんか。主は豊かな実りを約束してくださっています。主に栄光あれ！



Haus Palmgarten Kandern (D)での修養会 1998年

教会で構築された絆

阿部寛之

愛知県同盟福音一宮キリスト教会

この歴史ある教会に、自分が関わった事にとっても嬉しく思っています。今年は自分にとって、とてもエネルギーが必要な1年を迎えています。今年の4月から正職員になり、その担当が「地域の高齢者が住みやすい地域づくり」のコーディネーターの仕事をしています。現在、市の中で僕一人がそれを担っています。それだけに、責任も感じています。

仕事の一端で職場の市にある教会を訪れる事もあります。なぜなら、教会で構築された絆が、高齢者のクリスチャンの生活の中でどれだけ大切なものなのかを、市役所の職員や学識者、民生委員さんの集まる会議で報告するからです。

こんな素晴らしい発表の場を僕に与えて下さったイエス様に感謝しています。そして、この仕事必ず整えられる事を、毎日祈っています。これからもみなさんに更なるイエス様の愛が注がれる事を祈っています。



ザーベルシュタイン・キリスト者の集い 2016年

本当に本当に楽しい奉仕でした

田辺正隆

奥多摩福音キリスト教会

”わがたましいよ。主をほめたたえよ。主のよくしてくださたことを何一つ忘れるな。”(詩篇103:2)

教会の頭であり、愛と真実と忍耐をもって私たちを導いて下さった主に心から感謝し、全ての栄光を主に帰します。教会創立25周年、おめでとうございます。

私と家内のスイスでの働きは、1993年にドイツのデュッセルドルフ日本語教会の牧師として赴任した直後から始まったと言えます。(奇しくも、この年に、スイス日本語福音キリスト教会が発足しました)。スイスの群れにクンツ先生御夫妻をはじめリーベンゼラーミッションに関わる方々がおられたからでしょう、毎年、行われていた「修養会」に講師として招かれたからです。

エッシーとベアーテンベルクで行われた修養会は忘れられません。エッシーでは、ベルン在住の山崎兄の洗礼式が行われました。私のスイスでの初めての洗礼式の司式でした。ベアテンベルクには、私が大学を中退してリーベンゼラーミッションの宣教師の説教を訳すお手伝いをしていた時、宣教師の方々から「そこで学んだらだら・・・」と勧められた神学校があったからです。当時のベアテンベルク神学校の校長だった Frau Dr. Wasserzug 先生から入学許可もいただいていたのですが、導きを確信できず、断念した経緯がありました。



修養会に行き、神学校からスイスアルプス連峰の山々を見た時、高校時代スキー山岳部員だった私の心にほんの一瞬でしたが後悔じみた思いがよぎりましたがそれは直ぐに打ち消されました。私はベアーテンベルクへ行く代わりに、福音伝道教団の聖書学校「中央日本聖書学塾」に導かれるわけですが、そこでローマ9:15のみことばを通して生ける主にお会いし、「私に全てを委ねて従いなさい」とのみことばを聞いたからです。この経験なくして今日の私はいないでしょう。

Düsseldorfでの6年間の働きを終えようとしていた時、スイスからの招聘が決まりました。問題はスイスに住む場合のビザでした。ゲルスタ先生は「いろいろ調べたが、すでに教団の鈴木先生がスイス在住の全日本人のためにという理由でビザを取っているの、政府はもう一人の牧師にはビザを発給しないだろう」ということでした。その時、家内が「私たちはドイツの無期限ビザをもっています。ドイツから通ってスイス宣教ができるのでは・・・」と提案してくれ、スイスとフランクフルトの両教会で奉仕することになった訳です。



スイスJEG創立25周年

家内は2003年に心筋梗塞の手術をしたため、遠出をせず、ダルムシュタットの礼拝を始め、群れを導く責任を負うようになりました。しかし、パーゼル集会(真壁兄姉宅)、アールアウ集会(ブルーヒン真澄さん宅)等に一人で出向き、福音を伝えることができました。「70歳を超えてアウトバーンを走らせる日本人女性はあなただけだろう、ギネスブックに載せてもらおうか」などと話したこともあります。そんな形で共にスイスで奉仕できたことを感謝しています。

私の月に2回、計2000キロ走るスイスでの奉仕、本当に本当に楽しい奉仕でした。辛いとか苦しいとか嫌だとか、まして、止めようかな

どと思ったことは一度もありません。初代教会の時代、兄弟姉妹が家庭を開放し、求道者のを招き、そこに説教者を呼んで集会をもつ・・・そんな情景を彷彿させる諸集会でした。共に労された兄弟姉妹に感謝します。通訳の方々、感謝します。説教の通訳は、オランダの南部集会で通訳を付けて説教がなされていた。家内がスイスでも通訳をつけたら・・・と提案してくれました。結果として現地の方々とは結婚された姉妹方が家族ぐるみで礼拝に出席されるようになり教会成長に連なったのではないのでしょうか。また、年を召し、健康がすぐれず、動き回っての奉仕ができない兄弟姉妹の陰での祈りの奉仕に感謝します。お祝いのことばにそぐわない個人的な証しになってしまいました。スイス日本語福音キリスト教会がいよいよ主に用いられ、御業が前進するように祈ります。祝福を祈りつつ。



リーベンツェルでの修養会 2000年秋

スイスで救われた私

菊地祥彦

オーストラリア・Coromandel Baptist Church



フィンランド・ロバニエミにて直くん、美智子さんと。

JEGのみなさん、創立25周年おめでとうございます。主がこれまで、みなさんの歩みを支え、守り、導いて下さったことを覚えて、主の御名をほめたたえます。JEGがあったからこそ、僕はスイスで救われました。海外の日本人教会の使命は本当に尊いものだと思います。これからも主の御国の拡大のために大いに用いられるようお祈りしています。

必要をご存知の神様

加藤雅也・智美

横浜国際バプテスト教会

スイス日本語福音キリスト教会25周年おめでとうございます。神様がいつでもどこでも必要なものを与え、満たしてくれることを感じています。私達は、最初の立ち上げ3年間だけの参加でしたが、不思議と説教をする人と通訳する人や奉仕する人々が与えられ、いつも2か国語でメッセージを伝え、食事付きの交わり会をすることができました。今も新しい人々がスイスの教会に与えられ素晴らしいことです。

数年前までの5年間、私達はマレーシアのパプテスト教会で礼拝を守っていました。95%がイスラム教徒で残りの一部が仏教徒とヒンズー教徒とクリスチャンの州での教会活動

でしたが、神様がそこでも見守ってくれました。その時のバプテストとその後の愛餐会の写真を添付します。智美の母は5年半前より脳梗塞で入院中で父は90歳です。お祈りに覚えてください。雅也は来春から新たなミッションが与えられそうです。



脇山&クンツご夫妻と 1995年

晴れの日も雨の日も

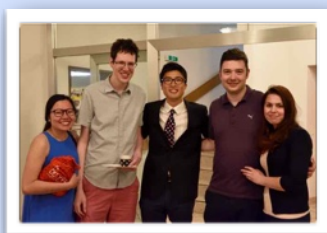
矢部晶宏、幸恵

OM 宣教師

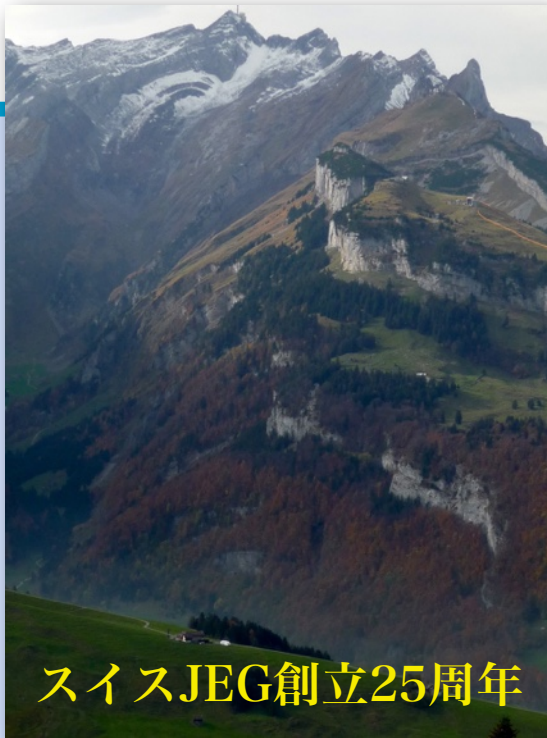
創立25周年おめでとうございます。心からのお祝いを申し上げます。皆さまの信仰の歩みは世界中の同胞にとって大きな励ましと刺激です。

私がスイスJEGを初めて知ったのは、スイスから地球の反対側にあるニュージーランド・クライストチャーチでした。クライストチャーチ留学中の2004年、スイス人の友人が「私のお父さんは日本人で、スイス日本語教会に行っているの」と教えてくれました。はっきりした顔立ちの友人を見ながら「君が日本人とのハーフ？冗談でしょ！」と思いましたが、その友人、サマラさんのご両親は、松林幸二郎さん&ハイディさんだったのです！それが最初のきっかけです。

2008年ドイツのコンスタンツに留学した際には、松林ご夫妻をはじめ、田辺先生ご夫妻、原ご夫妻など、JEGの方々に大変お世話になりました。ドイツ留学は試練の時でもありましたが、JEGの方々と繋がりが（もちろん日本食



JEGでの奉仕、スイスの友人たちと2018



スイスJEG創立25周年

も！！）、主にある大きな励ましとなりました。今年2018年4月には、そのような思い入れがある教会で敬愛するマイヤー先生からメッセージ奉仕の機会をいただき、皆さまと一緒に愛する神さまを礼拝でき、感謝感激でした。

スイスJEGは日本のリバイバルだけでなく、世界宣教のために大きく用いられる教会だと固く信じています。晴れの日も雨の日もデコボコ道も穏やかな道も皆さまを導かれた恵みの主が、これからも更なる祝福をもってスイスJEGを導かれると確信しお祈りしています。

主イエスさまに心から感謝しつつ。

備えられていた日本語教会

ヘス明美

スイス日本語福音キリスト教会

学生時代に教会へ行き始め、大学3年の終わりに洗礼を受けた私は、大学卒業後欧州で働き始めました。その後スイス人の主人と出会い、1995年にチューリッヒへ引越して来る直前、1993年11月に創立されたスイス日本語福音キリスト教会(JEG)の事を大学の先輩から聞きました。信仰の道に入ったばかりの私に、神様の恵みにより日本語の教会が備えられていた事は、感謝以外の何物でもありません。



最愛の夫と娘

1996年1月に初めてJEGを訪ねてから、約23年間ずっと通わせて頂き、神様から離れる事なく、信仰を持ち続けて行けるのは、神様の祝福とJEGのおかげです。教会の兄弟姉妹は、すっかりスイスの家族のようで、温かい交わり

と力強い祈りや励ましにいつも支えられていて、心から感謝しています。

創立25周年にあたり、私のJEGでの23年を思い返すと数々の素晴らしい思い出ばかりですが、やはり毎回の礼拝で日本語で御言葉を聴ける事、日本語で賛美出来る事の感謝、毎年の修養会やキリスト者の集いへの参加、そして今年の工藤篤子さんと野田常喜さんの賛美コンサートと賛美セミナーが何と言っても忘れられません。

私達を愛して導いてくださる主に感謝すると共に、JEGの皆様にもいつも有難うございますの気持ちでいっぱいです。これからもどうぞよろしく願い申し上げます。



この教会大丈夫かな？

高梨宣之

久留米市：滝山聖書バプテスト教会

スイス日本語福音キリスト教会の皆様、創立25周年おめでとうございます。先日は娘がスイスJEGの礼拝に出席することができ、皆様とのお交わりをさせて頂きありがとうございました。

スイスを離れて22年、家族が同じ教会を訪ね、当時の方々とのお交わりの機会があるとは、感激です。当時の思い出を少し書かせて頂きます。

1.1年のチューリッヒでの研修期間の終わりが近づいているのに、最後は続けざまに司会の奉仕を依頼され、この教会はこの後大丈夫かなあ？と不安を覚えつつ

帰国しました。無牧の中、ウスターに別の日本人牧師の教会が出来てちょっと探りに行ったりと、不安定な時期でした。その後22年、田辺先生、マイヤー先生と専任牧師が与えられ、こんなにも祝福されていて感謝です。



修養会：Aeschiriedにて 1996年

2.友子は、結局3回来瑞し、合わせて半年滞在しました。クリスマスに初めてスイス日本語教会に来て、クンツさんと共に子供達に日独語での紙芝居をした光景は22年経っても鮮明に覚えている思い出です。

3.たった1年の滞在でしたが、私たちの中では、いつまでも色あせない最高の想いでを中心に、スイス日本語福音キリスト教会での皆様とのお交わりがあります。いまだに感謝でいっぱいな気持ちです！

魂の故郷・スイスJEG

ミュラー トマス・カリン
スイス日本語福音キリスト教会

私たちが日本での11年間の宣教活動を終えてスイスに帰国した2004年は、私たちにとって非常に困難な時を過ごす年となりました。私たちは、若いころ神さまの明確な召命に従って、日本での宣教を目指していました。そして、日本では魅力的な言語を何年も学びました。しかし、外的な要因で突然の帰国を余儀なくされ、私たちの宣教活動は終わりを告げることになりました。

帰国後、私たちは、二人の子どもリリアンとルカとともに、スイスの地に、ゆっくりではありましたが、足場を築くことができました。神さまは、奇跡的にすばやく安く快適な住居を私たちに用意してくださいました。私たちの仕事もやっと得て、子供達のために現地のドイツ語の自由福音教会



スイスJEG創立25周年

に通い始めましたが、私たちにとって、なんとなく寄留地であるような気がしたものです。

ルカが堅信礼を終えると、私たちは1997年から1998年のデピュテーションで知って愛していたスイス日本語福音キリスト教会に、支障なく定期的に通えるようになりました。そして、2016年5月8日に会員として受け入れられ、スイスJEGが私たちの魂の故郷となって今に至っています。神さまはこうやって、かつての日本での宣教の働きを、このような形で継続させていけるようにしてくださいました。それはとても感謝なことです。

私たちは、スイスJEGにおいて、兄弟姉妹とともに神を賛美し、礼拝

中そして礼拝後の交わりに喜びを感じています。夏の修養会ならびにイスラエル旅行において、その喜びは最高潮に達したものでした。特に、様々なスタイルの賛美は競合するのではなく補いあっていて、とても気に入っています。また、初めて教会にこられた人々に示す教会員の歓迎と親愛の情はとても素晴らしいものです。私たちは宣教師として日本にいたころ、若者に関心をもち、ともに時を過ごしていましたから、彼らがストレスの多い職業生活に入る前に福音を伝えたいと切に願っています。ですから、現在、スイスJEGに集う若者が増えていることを心から嬉しく思っています。私たちは、スイスJEGの25年における神さまの守りと導きを心から感謝しています。神さまが、私たちにイエスさまとともに前進し、深い一致とたゆまぬ信仰の成長をお与えくださることを祈ってやみません。



1997年、スイスJEG玄関で

私の信仰の基盤

津田和明

淡路島：日本キリスト教団洲本教会

愛するスイスJEGが、主とともに歩み、守られて来た25年間に感謝いたします。私がスイスJEGに属したのは、わずか3年程でしたが、イエス様に出会い、初めて受け入れてもらった主にある群がスイスJEGでした。欠陥だらけの者を温かく迎えてくださり、若者を育て愛する教会として、未熟ながらもいろいろな奉仕をさせていただきました。教会からの支援で修養会に学びに行かせていただいたり、若者との学びや各家庭集会での美しい交わりなど、楽しかった思い出が尽きないスイスJEGの兄姉との経験は、今、私の信仰の基盤となっております。JEGがますますこれからも主の器として用いられ、主のご臨在と笑顔あふれる群として守られ、祝福されます様お祈り致します。25周年おめでとうございます。

私とスイスJEG

ルーティスハウザー小川云 (たみ)
スイス日本語福音キリスト教会

私がスイスJEGに通い始めて本当に日も浅くやっと一年になったばかりです。日本語でメッセージが聴け、交わりをもてるというニュースをスイスの情報誌グリエツィで知り、早速友達と伺ったのが始まりです。教会のみなさんが優しく親切に私たちをお仲間に加えてくださり、心から感謝しております。

マイヤー先生が母国語でお話ししてくださる”み言葉”を聴く機会に恵まれ、私にとってこれほど幸福なことはありません。今まで、自分の信仰はひとりで守ってきたという感じがありました。というのは、22歳のときに日本を出て、現在、私は80歳に向かっている人生、五カ国での生活、文化と言葉も違う異国での生活、日本人と出会う機会のない生活、20回近い引越しと、辛いこと悲しいことも山ほどありました。でもその中で、日々の導き、そして



楽しい愛餐会でのお交わり

朗らかで人を楽しくさせてあげられる笑顔、この二つを神さまが与えてくださったのです。今までは英語かドイツ語での礼拝に参加していましたが、母国語での礼拝に参加し、ともに賛美する喜びをもち、多くの方と親しくお話ができる機会をこれからも持ちたいと願っています。

今では、自分の信仰は自分で守ってきたのではなく、多くの方の祈りで支えられてきたのだと実感しています。本当に心から感謝しております。

あれよあれよと25年

脇山齊・多恵子

スイス日本語福音キリスト教会

私たちは1994年の初めごろからJEGにお世話になりました。当時、私(齊)はまだクリスチャンではなく、妻の多恵子のお供として参加していました。こういう交わりがあるんだと、最初の頃は不思議な気がしました。たくさん

さんの日本語を話す方々(もちろん日本人以外でも)がこのスイスの地へと。定期的に行くようになるにつれて、私にも信仰が芽生え、多恵子の母教会で洗礼を受けていた



修養会；リーベンツェルで 1997年



スイスJEG創立25周年

だき、あれよあれよという間に20年以上の年月が流れました。

その間、JEGには最初の頃は専任牧師がいなかったので、役員の方々が手を尽くしてスピーカーの方を探し、お願いするなどいろいろ大変だったようです。そして、田辺牧師に長く導いていただき、それから先日天に召されたゲルスター牧師、現在はマイヤー牧師という牧師を戴いて、恵まれた環境の中、神様からのメッセージを聞くことができます。



クリスマス劇 2014年

お働きの力強さ

原憲二

スイス日本語福音キリスト教会

私たちの教会の基となったのは、当時、日本に遣わされていた宣教師(LM, OMF, SAM)の方々のお祈りでした。そして今年2018年11月、創立25周年を迎えましたが、それを見届けるかのように、創立の中心のお働きをしてくださったHans-Ueli Gerster元宣教師が天に召されました。振り返ると、同じく創立のために貢献してくださったKunz Arthur宣教師を2001年に、Walter Siegrist先生を2017年10月に、最初の会堂を提供してくださったGerhard Roth先生を2018年1月に、見送りました。異国人である日本人の救いのために自身を捧げられてこられた先生方に、心から感謝するとともに、福音伝道のお働きの力強さを感じ大変励まされます。

「お働きの力強さ」を思うとき、創立記念礼拝でもあった、2018年11月11日のマイヤー先生の説教は、時になって貴重なメッセージでした。行いと信仰の関係についてでした。行いの動機は何なのかが問われました。



田辺牧師による洗礼 2002年

「神の認めを得るための行いなのか、それとも神に義と認められたからこそその行いなのか。」(メッセージからの引用) 働きは神の愛に駆り出されたもの以上のものであってはならないのです。そうしてみると、宣教師の方々が示してくださった「力強い働き」を見習うとすれば、その行動自体を見習うのではなく、根源となる神様から受けた恵みの自覚の大きさを見習うべきではないかと思われました。イエス様の十字架による贖いの愛と、初穂としてまず示してくださった復活の約束の恵みの深さに立ち返りたいと。

JEGの歴史を振り返る時

今村泰典

スイス日本語福音キリスト教会

2018年11月第4週日曜日でスイス日本語福音キリスト教会（JEG）は25周年を迎えました。JEGの歴史を考えると、それは私たちの結婚生活と重なり合います。すなわち私たちは1993年11月28日（第4週目の日曜日の前の土曜日）に結婚しました。ですからJEGの創立10周年の時は結婚10周年、創立20周年の時ま結婚20周年と、そしてこの11月28日に私達は結婚式を迎えました。

25年の間、教会には色々なことがありました。私達が初めてJEGに行った時は1995年11月で、当時はまだ無牧でしたが、折しも、田辺正隆牧師が説教にいらしていました。それから数年、無牧の状態が続いたのですが、田辺正隆牧師が正式にJEGの牧師に迎えられて10年働かれました。牧師が引退される時、新任牧師の選出に当って、教会内で意見の食い違いが出てくる事があります。しかし結果的に役員全員一致で故ハンス・ウエリ・ゲルスター牧師が迎えられ、そしてまた役員全員一致でマイヤー先生が迎えられました事を本当に嬉しく思いました。

今思えばこの様にずっと牧者が与えられたのは私たちの努力では決してなく、神様が私たちに与えて下さり、神様が教会を建てて下さったとしか言いようがありません。本当に素晴らしい事です。

JEGの歴史を振り返ると、神様への感謝の気持ちしか湧いてきません。この後、30年、40年と引き続き神様によって教会が支えられていくことを切に願ってやみません。

JEGの歴史は家族の歴史

今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会

「召されたあなた方はその召しにふさわしく歩みなさい」

エフェソ4:1

私たちの主なる神様がスイス日本語福音キリスト教会を25年間お守りくださいましたこと心より感謝いたします。

私たち家族はスイス日本語福音キリスト教会が創立されてから2年後の1995年から通い始めました。今年結婚25年を迎える私たち夫婦にとりましても、スイス日本語福音キリスト



スイスJEG創立25周年



2003年に洗礼を受ける

ただき、人知を超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、私たちが満たされますように」エフェソ 3:16~19

心よりお祈りしつつ歩ませていただきたいと願っています。



長男・詩門の洗礼式の後で 2016年

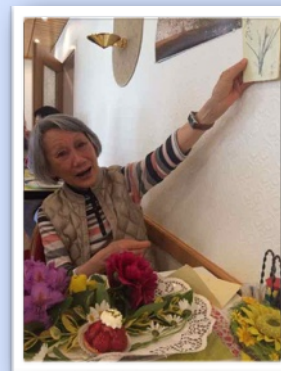
主と共に歩むファミリーチャーチ

松尾照子

聖書と賛美の会シュトゥットガルト

それはもう20数年前になるかと思いますが、ヨーロッパキリスト者の集いに行く度に、スイスからいらしている松林さんに一年に一度お会いしてました。その当時の私は、自分の住んでいる位置を中心として、その周辺だけが頭の中の存在範囲でしたので、スイスと聞いて、あの有名なハイジ物語や、ステキな山々のある風光明媚な観光地と言うイメージで、それこそ“山の彼方の空遠く”的な存在で、ヘー、そんなところにも在住日本人教会が存在するのー？と言う感じでした。

その10数年後、私は南ドイツに移住し、ストラスブルの集会を開いていらっしゃるスイス教会の今村ご夫妻と知り合いに



修養会で誕生を祝っていただく

なり、そのご好意で一泊どまりのスイス教会(当時在ウスター)訪問が実現致しました。そして、びっくりしたことは、参加者が国際的で、年齢層の幅が広く、特に、二世を含む若い世代の活躍が力強く目立っていることでした。そしてマイヤー先生の二か国語によるダイナミックなメッセージで、しかもゲルスタ引退牧師を始め、数人の引退宣教師達を含む交わりもあり、私はすっかり霊的にも満たされました。

それ以来、毎年開かれるスイス教会の修養会には参加させていただき、今年は特に修養会中、私の誕生日まで祝っていただき、大変感激致しました。その後、トムセンさんご夫妻のご好意で、いつも変わらぬ教会員の暖かく、活気のあるスイス教会の礼拝に出席させていただき、礼拝後のバーベキューや、翌日のスイスの山登りなどを体験させていただいたりして、またスイス教会との主にある交わりの思い出が増えてきました。

そして、私にとっての現在のスイス教会は、私がこの一年毎回礼拝に出席している、「聖書と賛美の会シュトゥットガルト」を中心軸として、その最も近い重要な周辺教会となっています。今後とも宜しくお交わりお願いいたします。

これからもスイスJEGの為お祈りしています

ロッテ・マツミューラー

スイス日本語福音キリスト教会

尊い主イエス様の御名を賛美いたします。Usterで日本人のための教会が始まったのは、もう25年前になります。このことは、神様のなされた本当に素晴らしい御業だと思います。心から感謝して、主をほめたたえます。これからも、ますます成長して、スイスに住んでいる沢山の日本人の方が救われて、教会に加えられるように、お祈りいたします。



スイスJEG創立25周年



初めの頃の礼拝 1996年

さて、私の思い出は最初の頃、二ヶ月おきにBrienzから主の御言葉を分かち合うために、電車でUsterまで片道3時間ぐらい旅行したことでした。その頃は、加藤さんご夫妻、田中さん、吉田廣子さん、脇山さんご夫妻らが熱心に参加されていました。特に、多恵子さんは病気であっても、いつも勇気を持って、主イエス様に頼り、模範的な態度

で生きていらして、本当に驚かされました。今でも、心から感謝しています。これからもがんばってくださいね。



修養会 Beatenbergにて 1997年

Aeschried で最初の修養会がありました。その時、若い兄弟の洗礼式もあって、神様のみ業を崇めました。それからSpiez

からFaulenseeまでの散歩は、とても楽しかったです。最近、あまりスイスJEGの礼拝に行けなくて申し訳ありません。ひとつの理由は、年を取ってしまい、私の耳も遠くなってしまったことです。そして、道程も遠いですね。しかし、これからも皆さんとスイスJEGのために祈っています。

どうか、望みの神が、あなた方を信仰によるすべての喜びと平和を持って満たし、聖霊の力によって望みに溢れさせて下さいますように。ローマ15:13

ヒアット姉の洗礼式のあと 1995年



創立25周年 おめでとう！ 2018年



神の家族・JEG

トムセン・チャーリー

スイス日本語福音キリスト教会

スイス日本語福音キリスト教会に通いはじめてから8年経ちました。初めてJEGを訪ねた時はちょうどクリスマス礼拝でした。スイスに来て三年目で、それまではあまりスイスでの日本人との関わりはありませんでした。同じ年代の子がいるかなーと少し緊張しながら家族と礼拝に参加しました。その時聞いたゲルスター先生の福音のメッセージとその後のスモールグループで感じた温かさはまだはっきりと覚えています。今ではJEGは僕にとって家族のような存在です。

この教会を通して色んな出会い、また別れがありました。教会ではもちろん、教会の支援を受けてヨーロッパ・キリスト者の集いやSLIMカンファレンツに参加し、本当に世界中のクリスチャンと出会う機会がたくさんありました。そこでできた絆をスカイプの聖書勉強やお泊まり会など色んな手段を通して、特にヨーロッパにいる同じ年代の日本語を喋るクリスチャンとの絆を深められたのもJEGのメンバーの祈りやサポートがあったからだと思います。個人的にもメッセージやキャンプを通して霊的に成長できました。この国際的な関係の中で自分の国籍は天国にあること、そしてみんなが神様の子どもだということ深く覚えさせられました。

JEGの家族に、そしてこの教会へ導いてくれた神様にとても感謝しています。これからもこの神の家族の一員として絆を深めながら神様へと近づいて行きたいと思います。

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。
ヘブル人への手紙12章1節



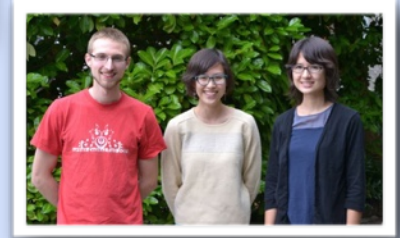
スイスJEG創立25周年

神様を愛するということ

トムセン・ヨハナ

スイス日本語福音キリスト教会

スイス日本語福音キリスト教会に通い始めて約7年目になります。神さまが私と私の家族をこの教会に導いてくださったと信じています。私は日本語を話すクリスチャンホームで生まれ育ったけれど、子供の時期のほとんどをアメリカの教会で育ちました。ですから、スイスで一つしかない日本語での交わりができる神様の家族が近くにあることは感謝です。決して偶然ではないと思います。



アンドレアス君、姉と。入会式の後で2013

まだ、初めてジェッグに行った時が忘れられません。皆様がとても優しくして下さいました。特に、ゲルスター牧師夫妻とアンドレアスの印象が大きく、私は彼らに対してとても感謝しています。家族のメンバーが病にあるゲルスター先生に対する態度は、神様への信頼さを示すものとして忘れられません。この出来事を通して神様を愛するという事はどうゆう意味かと、もっと深く理解できました。

ジェッグでの一人一人との出会いは貴重なことだと思います。今も神様がこうやってマイヤー先生を送ってくださったことも感謝しています。これからも、イエスの一つの体としてジェッグの皆さんと神様に近づき、周りの人々を真理と希望に導き、神様に栄光を返したいと思います。

私のJEG

トムセン・マリア

スイス日本語福音キリスト教会

私にとってJEGはみんなが集まって、一緒に神様のことを勉強して礼拝できる場所です。私はティーンズの学びで神様のことをたくさん習いました。同じ信仰を持つ友達ができたと感謝しています。そして、愛餐会でたくさん美味しいものを食べられるのが毎回の楽しみです。JEG大好きです！



クリスマス劇で2015

神の守りと導きの元で

マイヤー・マルチン

スイス日本語福音キリスト教会

地とそれに満ちるもの、世界とその中に住むものとは、主のものである。詩篇24:1

スイス日本語福音キリスト教会は、創立から25年の間、主なる神の忠実さと導きを知ることができ、その祝福を体験することができました。心から感謝申し上げます。

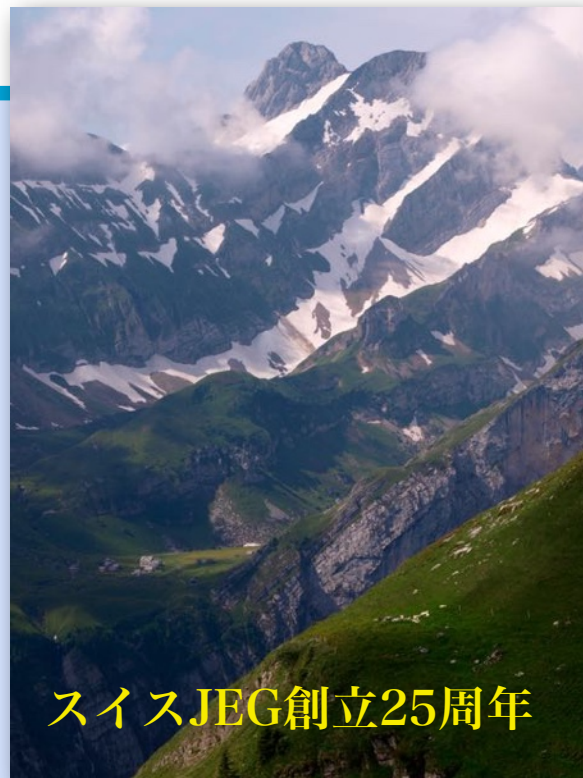
初代の集会は、小さな一粒の種に例えられる始まりでした。また、この25年間の間、たくさんの兄弟姉妹の出入りもありました。しかし、今は、すでに次の世代の受洗者が与

えられて、人数的そして霊的成長は、主の恵みによって顕著なものとなりました。私が、田辺先生とその後ご奉仕されたゲルスタ牧師の後任として、スイス日本語福音キリスト教会の専任牧師に就任して、はや5年も経ちました。



就任式 2014年1月12日

かっての日本における宣教の働きと比べて、一つ二つ大きな違いが明らかになっています。日本での宣教の働きには、一人一人の魂の救いのために、かなりの苦労が要りました。礼拝に招かれた人は、なかなか教会の敷居が高くて超えられなく、礼拝に新しい方が来られることは非常に少なかったのです。



スイスJEG創立25周年



若者バンド“渡り鳥”のデビュー

ヨーロッパの在留日本人は、音楽に礼拝に参加したり、ほかの日本人との交わりを求めながら、キリスト教への関心も高まっているように感じます。留学生としてヨーロッパに来ている日本人大学生は、聖書の勉強にも興味があったので、彼らのために家庭集会のほかに、大学のある都市で聖書の勉強会を簡単にスタートすることができました。

もちろん、短所もあります。スイス教会の兄弟姉妹は、広い地域に散らばって住んでいますので、礼拝に集まるために長い距離を走らなければならない事が多いです。そのため残念ながら、礼拝はいまだに月に二回しか持てないのです。また、教会の群れに必要な牧会の奉仕も、そのためとても難しくなっています。それでも、神様が教会生活を今日まで守ってくださっていますことに心から感謝しています。

これからも、ますます教会形成が進み、各家庭集会がさらに用いられ、み言葉との結びつきがさらに深められますように、お祈り申し上げます。



第1回 イスラエル旅行2015



スイスに本帰国しました！

マルティン・フィリップ、祐子、勇也、飛也

OM (Operation Mobilisation) インターナショナル

私たちはOM日本での5年間の働きを終えてスイスに帰ってきました。この5年間祈り支えてくださり、感謝します。OM日本事務所での働きを通して、日本の教会を宣教に動員するよう努めました。OMは毎年世界中に何百万人という人々を宣教に送り出し、福音を届け、必要に応じた人道支援を提供しています。そして教会を開拓し、弱い立場の人々の正義のために闘い、弟子訓練にも力を入れています。

このような団体の日本支部で奉仕することができたのは、神様の恵みと助け、そして私たちがこのことを想い、祈り、支えてくださった皆さんがいたからです。本当にありがとうございます。今後フィリップはスイスでOMインターナショナルの仕事が続けます。続けてお祈りいただけただけなら幸いです。皆さんの上に神様の豊かな恵みがありますように！

OMインターナショナル <https://www.om.org/en>

もっとも大きな慰めは

マツミュラー・ロッテ
ベルン州ブリエンツ

札幌に住むゲルスタ家のみなさんに最後にお会いしたのは、1992年に私がスイスへ本帰国する少し前でした。

豊かな賜物を持ち、日本と日本人そしてイエス様に、それは大きな愛を持つ若き宣教師の存在は、母の介護のために予定を繰り上げて帰国することになった私にどれほど勇気と喜びを与えたことでしょう！それ以後、私は定期的に受け取る”祈りの手紙”から、新しい教会における彼らの近況や働きを知りました。

そのゲルスタ夫妻が20年にわたる札幌における宣教の働きを終えて帰国し、ウスターにあった日本語教会での牧会の働きを継いだことを知って私の心は喜びに溢れました。その後、聖会や修養会、アデルボーデンにおける休暇でのゲルスタ家の皆さんとの再会は、いつも私にとって大きな幸せであり喜びでした。

ハンスウェリさんの病気と、11月の早すぎる召天は私に衝撃と悲しみを与えました。ゲルスタ家メンバーが心を合わせ、この過酷な運命を背負う姿は模範的といえるものでした。

私は遺族とスイス日本語教会の兄弟姉妹に、深い慰めと必要な力が神から与えられること祈ります。もっとも大きな慰めはハンスウェリさんが病の苦しみから解放され、天において、イエスさまの身許にいて、その栄光を見れることです。そしてイエス様との交わりを持つことができることです。私たちが天の御国においてハンスウェリさんに再会ができれば！それはイエス様だけが可能にしてくださいませ。

宣教のために人生を捧ぐ

菊地祥彦

オーストラリア・アデレート

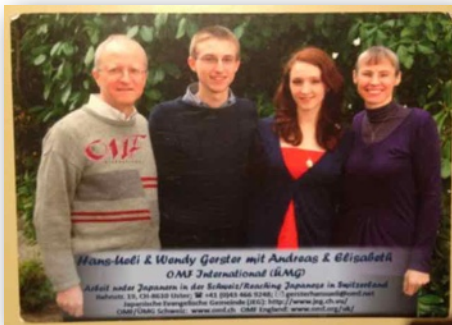
ゲルスタ先生が天に召されたことを知り、胸が痛みました。先生は僕が留学中にとっても気にかけてくださり、明確に福音を示し、信仰告白へと導いて

ゲルスタ先生を偲んで



くださいました。今でも、ゲルスタ先生と過ごした時間は、尊い思い出として心の中にしまっています。

先生が晩年に闘病生活をされていたことを聞いていたので、先生のこと、また、ご家族のことを思うと、気の毒な思いになりました。それでも主がいつも共にいてくださっているとウェンディさんのニュースレターを通して聞いていたので、平安を覚えました。



病に苦しんでいたゲルスタ先生が、私たちが持つこの不完全な身体から解放され、主のもとで苦しき痛みもなく憩い、喜びに満たされていることを思うと、愛と憐れみに満ちた主をほめたたえずにはいられません。

日本宣教のために人生を捧げて下さったゲルスタ先生、また、先生を用いてくださった主に心から感謝いたします。大切な家族を失ったウェンディさん、アンドレアス、エリサベスのために祈っています。

ゲルスタ先生を偲んで

渡邊万智子

大阪東住吉区

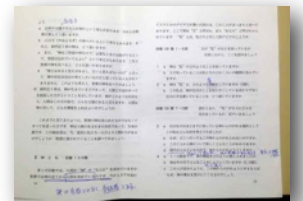
このようなメッセージを書くのは初めてで、どう始めればよいのかわかりませんが。。。ウェンディ師からご連絡をいただいた時は涙が止まりませんでした。

長く患っておられた先生が安らかに主の御元へ召された。。。生前の優しい笑顔がひたすら思い出されます。

ゲルスタ先生はたいへん柔和でホスピタリティ溢れる素晴らしい方でした。

特に記憶に残っているのは、私がクリスチャンになって間もない頃、ウェンディ師がご自宅で「基礎の学び」をして下さっていた時です。私が訪

問するとゲルスタ先生はあたたかく迎えて下さり、休憩の時や学びの後に質問をするとアンドレアス君と共に私の質問に真摯に答えて下さいました。モルモン教とキリスト教の違い等々、初心者ならではの(?)の疑問に優しくわかりやすくお答え下さったのが今でも心に残っています。



共に学んだ”基礎の学び”

その数年後にゲルスタ先生が体調を崩されているという話を耳にし、後にはウェンディ師からのニュースレターで具体的な状況を知ることができました。日々様子の異なる先生をご家族がどれほど献身的に支えてこられたか等々、遠く離れた日本で胸が詰まる思いでおりました。

そして先日、苦しむことなく天へ召されたと知り、この世ではもうお会いできない悲しみの反面、いつかまた新しい身体で再会できる希望がゲルスタ家の皆様やゲルスタ先生を知る皆様、そして私に与えられたことに主に感謝せずにはいられません。

どうかこの悲しみの時に主の大きな愛と平安がゲルスタ家の皆様と共にありますように。

キリストの香り

中嶋羊子

東京都足立区

ゲルスター先生と初めてお会いしたのは、私がまだスイスの住居が決まらず途方に暮れていた時でした。

1度しか礼拝に出ていなかったにも関わらず、「日本人カップルがスイスで家を見つけるのは大変だから」と物件を見つけたとお電話を下さり、一緒に見学まで付き合ってくださいました。

私は色々あり、スイスではなかなか礼拝を守ることができませんでしたが、いつも深い祈りと愛と励ましをくださいました。ゲルスター先生とウエンディさんが放った温かくて優しいキリストの香りに、私の信仰は育てられ、耕され、光の子として歩みだしました。

もうお会いできないのは本当に寂しくて仕方がないですが、ゲルスター先生のキリストの香りは天国からも放たれ続けることだと思います。私を含め多くの方の中で、これからもその芳しい香りから力を得ることでしょう。それを糧に、家庭で、教会で、地域で、友達の中で、私もキリストの香りを放つ人に変えられるよう祈り続けます。

一生大切にしたい思い出

コイ和子

ドイツ・コンスタンツ

先生の優しいまなざし、イエスの存在を真心を込めて伝えたいという雰囲気は脳裏に焼きつき、一生大切にしたい思い出です。素敵な奥さんのWendyや素晴らしい子供たちに恵まれ、先生の生活は充実したものだったでしょう。イエスの愛で満ち溢れているファミリー-や我々を、いまや彼はイエスとともに天から見守って下さる実感があります。先生とのふれあいはイエスとのふれあいでした。心から感謝しつつ天国のお部屋で待っていてくださいね。



就任式 2010年11月

ゲルスタ先生を偲んで



札幌の自宅前で 2007



ハンスウェリが私たちに語った言葉

ミューラー トマス・カリン

スイス・チューリッヒ

ハンスウェリとウエンディは、私たち宣教師にとっていつも模範的存在でした。1990年、私たちは日本に遣わされるOMFの宣教師候補となりました。そして、私たちは四国本州を縦断する旅行をしたのち札幌に渡りました。

札幌において、私たちはゲルスタ家の”おもてなし”にあずかることができました。その時、ハンスウェリが私に言った言葉は決して忘れることができません。”1年か2年のち、君たちが札幌の日本語学校にくることを楽しみにしているよ。そしたら君たちとの交わりを持つことができるだろう！”

残念なことに、私(トマス)の腰痛の為にその願いは叶わず、私たちは本州そして、その後、こよなく愛する温暖な四国に行くことになりました。私たちは四国にあって、ハンスウェリたちの多様な宣教活動、日本人を愛して心からの奉仕について読んだり聞いた



ベアテンベルグ修養会 2012

りしてきました。もっとも大きな喜びをもたらしたのは、私たちが本帰国して2年後に、スイス日本語福音キリスト教会でしばしば会えるという事実でした。

神様、どうかウエンディさん、アンドレアスくん、エリザベスさんをこれからも祝福してください。そして彼らの宣教活動が多くの果実をもたらしてくださいますように！

なんと美しい日本語で

クライナー佐々木千恵子

ドイツ・バックナング

私が初めてスイス日本語教会を訪れたのは2003年でした。その時のメッセンジャーが、なんと丁度北海道から帰って来られたゲルスタ先生でした！なん

と美しい日本語で話されるのだろう！と、びっくりしました。もっとびっくりしたのは、愛餐会するとき、私の横に座って話しかけ、そして、イザ



や53章を教えてくださいと、私のために特別にお祈りもして下さったのです。そのとき頂いた53章はそれ以来あまりにも印象的で、特別な力を持って私に語りかけてくれます。

また*基礎の学び*をメアスブルグの原しのぶさんと一緒にやることを勧められ、それを発端に、その後も何人もの人とともに聖書を学ぶようになりました。2003年のその時のゲルスタ先生のメッセージは、原さんがCDにして下さり今も持っています。その日は驚きと感動感謝の初めてスイス教会を訪れた忘れられない日となりました。私を連れて行って下さった原夫妻に感謝です。

その後もゲルスタ先生ご夫妻にはメアスブルク集會やスイス教会でお世話になり、心にかけていただき、とても、とても感謝しております。

主の御心は別でした

田辺正隆・みや子

東京都奥多摩

ゲルスター師が天に召されたことをお知らせ下さってありがとうございました。

私どもはゲルスター先生がOMFの重い責任を担う方だと思っていました。しかし、主の御心は別でした。スイス日本語福音キリスト教会の創立に関わってくださったこと、日本の北海道での宣教に携わり、良い働きをしてくださった事、感謝しています。

今、全ての重荷から解放されたれ、主の御許に憩っておられることを確信しています。葬儀には出られませんが、奥様とお子さんたちに私どもからの弔意をお伝えいただけたら、幸いです。

1 コリント15：55～57

それは罪です！

脇山 齊

スイス・ウスター

あれは今から15年以上前だと思えます。日本で宣教師として働かれていたゲルスター先生は、スイスへ一年間デピテーションとして帰って来られている時に会う機会を作ってくださいました。私がお酒でいろいろと問題があったと話していたら『それは罪です。』とはっきり言われました。何を血迷ったか自分でもその時はわからず『はい、止めます』と宣言してしまう自分がいました。



しかし、神様はすごいですね、あれだけ好きだったお酒が未練もなく、すっかり欲しくなくなったのです…。ある時休暇でこれはホテルからのプレゼントです”と持ってこられた蒸留酒のシュナップスやキュープリーナ

ゲルスタ先生を偲んで



ど全く手を付けずにおくことができましました。毎日浴びるくらいに飲んでいた私です、信じられますか？しかし、あれから一滴も飲んでないですよ、本当に。

お酒を飲むこと自体は悪でも罪でもなく、少しであれば聖書にも書いてあるとおり、薬みたいなもので体にいいと思います。しかし、度を過ぎていた私から、その思いを取り去ってくださった神様に感謝です。人は神様によって変えられるんだと気付かされました。ハレルヤ！

み使いと共に賛美

トムセン千香子

スイス・フォルゲットヴィル

7年前のクリスマスの日、私は初めてJEGを訪れました。その日はゲルスタ先生の説教でした。そのゲルスタ先生の説教が私にとって初めて最後になるとは思いもしませんでした。それでも先生との交わりは家庭集会などを通して続きました。

先生の印象としては、気さくでへりくだった方だと覚えています。歌も素晴らしく上手で、言葉をあまり話せなくなった頃でも賛美は変わりなく歌われていました。特に「感謝と喜びを」を声高らかに歌っておられた姿は今も脳裏に浮かびます。

きっと今頃天国で昼も夜もみ使いと共に賛美されていることとでしょう。いつかまた先生と主と共に賛美できる日を心から楽しみにしています。

愛に満ちた言動

クンツ・ルート

スイス・サンクトガーレン

ハンスウエリ兄弟に関して、私の記憶に残る多くの思い出の一つは、兄弟の人に対する神様の愛で満ちた言動です。兄弟には深い知識と経験そして法学博士という高い社会的地位がありましたが、いつも相手を尊重して、優しく謙遜な話し方をされました。

ハンスウエリ兄弟の送別会でこんなことがありました。送別会への出席者の席にはヨハネの福音書が置かれていました。それは兄弟が、出席者一人一人に、さらにその友人まで、福音に招こうとしてお渡しになったのでしょうか。



私はハンスウエリ兄弟の召天に際しヘブル人への手紙11：4を思い出しました。「彼

は死にましたが、その信仰によって、今なお語っています。」ハンスウエリ兄弟の生涯を通しての尊い証に心から感謝します。

楽しい思い出

クスター節子

スイス・サンクトガーレン

先生とお知り合いになったのは、先生が宣教先の北海道からスイスに帰国なさって、田辺先生のあとを引き継いでJEGの牧師となられた時からです。私がJEGへ入会したのはゲルスタ先生がJEGに来られた次の年2011年の2月のことでした。何回か役員、世話人に奉仕についてのセミナーを開いてくださいました。

その時は今の「ユースのお泊まり会」のように二日続きのセミナーでお食事を共にし、遠くから来る者には先生のお宅に泊めてくださり、夜おそくまで色々なお話をしていただき、沢山のことを学ばせていただきました。

先生は教会の近くにお住いだったので時々先生宅の前庭でゲームをしたり、散歩にご一緒したことも楽しい思い出になっています。

居酒屋での思い出

松林幸二郎

スイス・トイフェン

スイス人の友人4人を案内して北海道を旅行した際、その頃、札幌で宣教されていたゲルスタご夫妻は、友人2人を自宅に泊め、おもてなししてくださいました。スイス航空が破綻した2001年の秋のことでした。

そのささやかなお礼に夕食をと、札幌駅構内にある居酒屋にお招きしましたが、ご夫妻にとっては居酒屋に足を入れるのは生まれて初めてだったようです。私たちにとって、居酒屋はその土地の新鮮な食材を使った郷土料理を安く頂ける”料理屋”でしたが、ご夫妻にとっては居酒屋は誘惑に満ちた悪の巣窟だったのかも知れません。

一瞬、戸惑った表情を見せられたので、私は不良中年になったような後悔の念を持ちましたが、全員席についていましたから、外に出ることも出来ませんでした。そうこうするうちに、テーブルには北海道が誇る海産物、帆立やエビ、鮮魚のお刺身や焼き物などがとところ狭しと並べられました。さすがに北海道、駅の構内といえども東京で食べる魚介類とは比較にならない鮮度で安く、ゲルスタご夫妻も緊張から解きほぐされ、本当に嬉しそうな表情で美味しい魚を召し上がってくださいました。ご夫妻の子供のように輝く目を見て、皿の上のホッケの目みたいだと、嬉しくも不謹慎にも思ったことでした。

それから、10年後、ゲルスタ先生は、役員全員一致の招聘決定を受けて、田辺先生の跡を継いで、スイス日本語福音キリスト教会の牧師に就任されました。私は役員会会長として教会のお手伝

ゲルスタ先生を偲んで



集合写真 2012年



いをさせて頂きましたが、その後次第に病気が進行し、その事を自覚されていたゲルスタ先生は最も苦しまれていたに違いありません。私も、船長を失った航海士のように、スイスJEG丸をいかに正しい航路に持っていけばよいかと苦悩いたしました。

そして、ゲルスタ先生は、私たちを残して天に凱旋されていきました。日本と日本人を愛して止まなかったゲルスタ先生の生涯は、短くとも鮮烈な信仰者としてあるべき姿を私たちの心に焼き付け、先生が愛したイエスさまの元に帰っていかれたのです。あの優しい笑顔と語り口にもうこの地上で会えないと思うと寂しくはありますが、今は、天のみ国での再会を楽しみにしています。そして、札幌駅構内での居酒屋の思い出話をしましょう。

ゲルスタ先生の賛美ダンス

本園万子

スイス・ウスター

私が、ゲルスタ先生の召天を知ったのは、日本に里帰り中のことでした。長女のサーウから、エリザベス自身のフェイスブックへの投稿が送られてきました。「今日、私の最愛のダディがイエス様の元へと帰って行きました。捧げられた尊い祈りと様々なサポート、そして、慰めの言葉に感謝します。私たちは、この広

い世界の中で、最も柔和で無私の生き方を貫き通した人物を失い、悲しい思いでいっぱいです。しかし、何と言う喜びでしょう。父は、彼の救い主であり、親友である、イエス様の元にいるんです。いつも、私が眠れるようにとピアノを弾いてくれたこと、レゴでらせん階段を作ってくれたこと、ワクワクする本を読んでくれたこと、私をそのままの私として愛してくれたこと、常に忍耐をもって接してくれたこと、そして、一番重要なことは、見返りを期待せず人々を愛することを教えてくれたこと、最愛のパパ、ありがとう。天の御国では、じっとしないで、私のために、喜びあふれ、賛美のダンスを踊っていてね。」

何と言う、素晴らしいメッセージでしょうか？こんな素晴らしい言葉を愛娘から捧げられ、ゲルスタ先生が本当にイエス様の前でジャンプしながら踊っておられる姿が見えるようです。ウェンディとアンドレアスの二人三脚での介護、そして、ウェンディの精神的な支えとなったエリザベス。イエス様もゲルスタ先生も全てご存知ですね。ゲルスタ先生、天の御国でお会いすることを楽しみにしています。アーメン。

Liz Kauer 11月9日 11:32

Today, my dearest Papi/daddy went home to Jesus. Thank you for all your prayers and support. Your kind and encouraging words. We are sad to not have the kindest and most selfless man in the whole wide world with us anymore. But what joy we have, that he is now with his Lord and Saviour and best friend, Jesus. Thank you Daddy for all the times you played the piano for me to help me fall asleep, for building the best spiral lego staircases, reading us the most adventurous stories, for loving me for who I am, being patient at all times and most importantly for teaching me to love everyone, without expecting anything in return. I love you Papi. Don't rest in peace, but rather dance around in heaven for me ♥

エリザベスのFacebookより。